

燕市立分水北小学校



学校データ

【学級数】 8学級

【児童生徒数】 119人

【地域コーディネーターの有無】 有

地域への誇りとともに自主性・社会性を育む教育活動の推進

1 はじめに

当校は四箇村小学校、中島小学校、国上小学校の3校が統合し昭和60年に開校され、今年度で35周年を迎える。良寛ゆかりの五合庵を擁する国上山を校区にもち、幾多の史跡や伝承に恵まれている。

校区の多くは農村部に位置し、児童は素直である。反面、慣れ親しんだ集団の中での生活が続くことから、自主性や社会性の伸長を教育課題としている。

そこで、地域の宝たる国上山を子どもたちに再発見させる活動を通して、地域に貢献しながら自主性・社会性を育成することをねらい、地域教育プログラムを組織した。

2 取組の実際

(1) 国上山は宝の山(3年生)

① 国上山を知り、探検しよう

道の駅国上、酒呑童子神社、国上寺といった史跡や建造物を訪ねた。その上で、市観光課の方から酒呑童子の話聞き、酒呑童子行列でのメイクを体験した。また、自然環境や建造物の見学後にも、これらにまつわる話を専門家から聞いた。まとめとして酒呑童子や千眼堂吊り橋、野

草等について知り得たことをパンフレットの形でまとめている。

(2) 目指せ！国上山観光ガイド(4・5年生)

① 観光ガイドに向けて(4年生)

4年生では、3年時に学んだ内容のうち、特に良寛和尚について焦点を当て、国上山で観光ガイドを行うことを目標に年間の計画を立てている。



良寛和尚についての講義を聴く

地域の専門家を招き、良寛和尚の五合庵での暮らしぶり等を学んだ後に国上山へ行き、訪問者へのインタビューを行った。これによりガイド内容のニーズを把握していった。

ガイドの内容については、国上山ボランティアガイド「はちのこ会」の方から2回にわたり指導を受けた。一度目はガイドの注意点や心構えを講話の形で伝えてもらい、二度目には現地でのガイドの様子を見学し、伝え方や接し方について実際

的に学んだ。

そして迎えた 11 月のガイド当日、国上山の五合庵、乙子神社草庵、酒呑童子の鏡井戸、千眼堂吊り橋、国上寺の 5 箇所に分かれてガイドを実践した。燕市観光協会から借りたベストを着て臨んだ。雨模様であったが、多くの団体客や家族連れに史跡の紹介を行うことができた。



五合庵でのガイドの様子

ガイドを受けた観光客の方からは「今日は感動的な旅行になった。また来たい」という喜びの声をいただいた。子どもたちも「もっとガイド(を多くの人に)したかった」など、達成感に溢れる様子が見られた。

② 観光ガイドに向けて(5年生)

全国良寛会が燕市で開催されると聞き、良寛会に訪れた方々へ前年度の経験を生かした「国上山ガイド」が行えるよう、市教委へ依頼した。

4年時に作成した案内原稿の再吟味を行った上で、グループ間での発表によるアドバイスをを行った。さらに、管理職・分水良寛会会長への模擬発表を経て、令和元年6月9日(日)、国上山での良寛会参加者へのガイドを行った。多くのグループがガイド後に握手を求められ、充足感に満ちていた。

3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

5年生の国上寺ガイドグループで、次のような姿が見られた。

子どもたちがガイドする相手を探していると、TVカメラを担いだ取材クルーを見つけた。一瞬目を見合わせた後、迷うことなく近寄り、ガイドしたい旨を伝える。時間の都合で断られたが、出会った記念にと国上寺を描いた絵を渡し、握手をしてにこやかに離れた。この子たちの多くは、素直だが引っ込み思案で見知らぬ人にガイドをアピールするなど一年前には考えにくい子だった。

これまでの協働作業に裏付けられた仲間との連帯感に根ざす社会性の向上と、自主性の高まりが実感された。



ガイド後に握手を求められる

また、保護者からは「子どものガイドを契機に地域への関心が高まった」との声を多数いただいた。本活動を通じて、「学校への関心」と「地域理解」の高まりが、多くの保護者に見られるようになった。

今後は、教科横断的なつながりを意識したカリキュラムマネジメントを更に進めていく必要がある。

4 おわりに

地域の力を子どもの力に結びつけるような子どもの活動を教育課程に位置づけ、地域の活性化を図っていく。そして、地域の宝国上山を軸として、そこにまつわる人々との接点を増やしつつ自主性・社会性の育成を継続していく。